

Asia Indicators

発表日: 2025年5月9日(金)

台湾・4月輸出は引き続き堅調に推移(Asia Weekly(5/2~5/9))

~トランプ関税の影響が懸念されるも、対米輸出をけん引役に堅調な動きを確認~

第一生命経済研究所 経済調査部

主席エコノミスト 西濱 徹(Tel:050-5474-7495)

○経済指標の振り返り

発表日	指標、イベントなど	結果	コンセンサス	前回
5/5(月)	(インドネシア)1-3月実質 GDP(前年比)	+4.87%	+4.91%	+5.02%
	(シンガポール)3月小売売上高(前年比)	+1.1%	--	▲3.5%
5/6(火)	(フィリピン)4月消費者物価(前年比)	+1.4%	+1.8%	+1.8%
5/7(水)	(ニュージーランド)1-3月失業率(季調済)	5.1%	5.3%	5.1%
	(タイ)4月消費者物価(前年比)	▲0.22%	+0.00%	+0.84%
	(台湾)4月消費者物価(前年比)	+2.03%	+2.10%	+2.32%
5/8(木)	(フィリピン)1-3月実質 GDP(前年比)	+5.4%	+5.7%	+5.3%
	(マレーシア)3月鉱工業生産(前年比)	+3.2%	+2.0%	+1.5%
	金融政策委員会(政策金利)	3.00%	3.00%	3.00%
	(台湾)4月輸出(前年比)	+29.9%	+16.0%	+18.6%
	4月輸入(前年比)	+33.0%	+18.9%	+28.8%
5/9(金)	(中国)4月輸出(前年比)	+8.1%	+1.9%	+12.4%
	4月輸入(前年比)	▲0.2%	▲5.9%	▲4.3%

(注) コンセンサスは Bloomberg 及び THOMSON REUTERS 調査。灰色で囲んでいる指標は本レポートで解説を行っています。

[台湾]~トランプ関税の影響が懸念されるも、4月の輸出額は対米輸出を中心に底入れの動きが続いている~

7日に発表された4月の消費者物価は前年同月比+2.03%となり、前月(同+2.32%)から鈍化している。前月比も+0.27%と前月(同+0.05%)から上昇ペースは加速しているものの、国際原油価格の調整の動きを反映してエネルギー価格に下押し圧力が掛かるとともに、生鮮品や穀物などをはじめとする食料品価格も下落しており、生活必需品を中心にインフレ圧力が後退する動きが確認されている。なお、生鮮食料品とエネルギーを除いたコアインフレ率は前年同月比+1.66%となり、前月(同+1.66%)から横這いで推移している。前月比は+0.56%と前月(同+0.12%)から上昇ペースは加速しており、エネルギー価格の下振れにもかかわらず輸送コストに押し上げ圧力が掛かる一方、国際金融市場では通貨台湾ドル相場は底入れの動きを強めるなど輸入物価が抑えられており、幅広く財価格は落ち着いた推移をみせる一方、幅広くサービス物価に上昇圧力が掛かる動きがみられるなど、緩やかにインフレ圧力が強まっている様子が見えてくる。

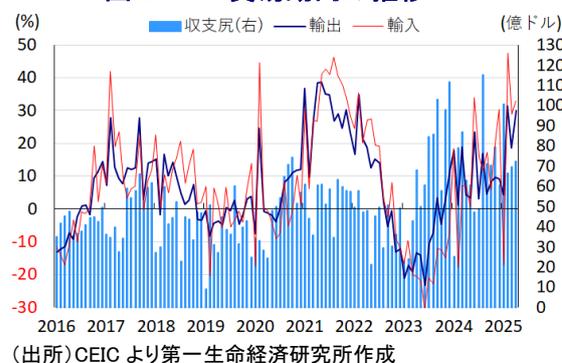
8日に発表された4月の輸出額は前年同月比+29.9%となり、前月(同+18.6%)から伸びが加速している。前月比も+2.1%と前月(同+7.7%)から2ヶ月連続で拡大しており、トランプ関税の発動を

前にした前月の拡大による反動が懸念されたものの、一旦発動された上乗せ分が直後に 90 日間延期されたことでその影響が軽減されたとみられる。財別では、鉱物資源関連のほか、化学製品関連やプラスチック製品関連、金属関連など素材・部材の輸出が軒並み下振れしているものの、主力の輸出財である半導体をはじめとする電子部品関連の輸出の堅調さが全体を下支えしている。国・地域別でも、EU 向けや日本向けといった先進国向けは軒並み下振れする一方、中国本土向けに底堅い動きがみられるほか、米国向けの堅調さが輸出を下支えしている。一方の輸入額は前年同月比+33.0%となり、前月（同+28.8%）から加速している。前月比も+1.7%と前月（同+8.6%）から3ヶ月連続で拡大するなど底入れの動きが続いている。財別では、鉱物資源関連や化学製品関連、金属関連など素材・部材の輸入は幅広く下振れしているものの、機械製品関連の輸入に底堅い動きがみられるほか、金をはじめとする貴金属関連の輸入が大きく上振れしたことが全体を押し上げている。結果、貿易収支は+72.08 億ドルと前月（+69.48 億ドル）から黒字幅が拡大している。

図 1 TW インフレ率の推移



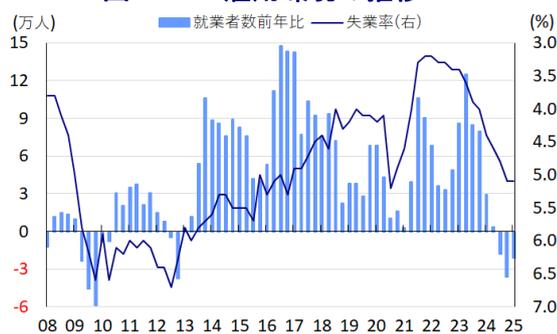
図 2 TW 貿易動向の推移



[ニュージーランド]～失業率は横這いも正規雇用を中心に調整が続き、労働市場への参加意欲も後退の様相～

7日に発表された1-3月の失業率（季調済）は5.1%となり、前期（5.1%）から横這いで推移している。失業者数は前期比+0.0万人と前期（同+0.8万人）まで丸3年にわたって拡大が続いた流れに衣服感が出ているものの、中期的な基調は拡大傾向が続いている。一方、雇用者数は前期比+0.3万人と前期（同▲0.6万人）まで2四半期連続の減少が続いた流れに変化の兆しが出ている。しかし、足元の雇用拡大の動きは非正規雇用が中心となる一方、正規雇用では調整の動きが続くなど対照的な様相をみせている。さらに、分野別でもサービス業のほか、製造業、建設業など幅広い分野で調整の動きが確認されている。なお、労働力人口は前期比+0.3万人と前期（同+0.1万人）から小幅ながら2四半期連続で拡大しており、中期的な基調も拡大傾向に転じるなど底打ちしている。しかし、非労働力人口の拡大ペースは労働力人口を上回る推移をみせており、労働市場を取り巻く環境が厳しさを増すなかで労働市場への参入意欲が後退している様子が見え始める。RBNZは先月の定例会合で5会合連続の利下げに動く一方、1-3月のインフレ率は前年比+2.5%と前期（同+2.2%）から加速するも引き続き目標（2±1%）の域内で推移しており、足元の雇用環境はインフレ圧力の後退を示唆する動きをみせていることに鑑みれば、先行きも一段の利下げに動く可能性は高まっていると予想される。

図3 NZ 雇用環境の推移

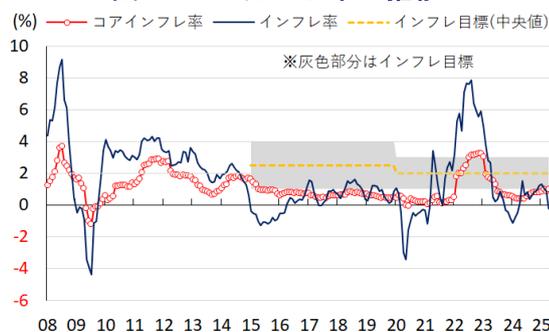


(出所)CEIC より第一生命経済研究所作成

[タイ]～生活必需品の物価下落でインフレは13ヶ月ぶりのマイナス、サービス物価上昇でコアインフレは加速～

7日に発表された4月の消費者物価は前年同月比▲0.22%となり、前月（同+0.84%）から13ヶ月ぶりのマイナスに転じている。前月比も▲0.21%と前月（同▲0.20%）から3ヶ月連続で下落しており、国際原油価格の調整の動きを反映してエネルギー価格が下振れするとともに、生鮮品や穀物をはじめとする食料品価格も下落基調が続くなど、生活必需品を中心にインフレ圧力が後退していることが影響している。なお、食料品とエネルギーを除いたコアインフレ率は前年同月比+0.98%となり、引き続き中銀目標（ $2 \pm 1\%$ ）を下回る推移が続くも、前月（同+0.86%）から加速している。前月比も+0.16%と前月（同▲0.13%）から2ヶ月ぶりの上昇に転じており、エネルギー価格の下落を反映して輸送コストに下押し圧力が掛かるとともに、国際金融市場における通貨バツ相場の堅調さを受けた輸入物価の安定も重なり財価格は落ち着いた推移をみせる一方、サービス物価に上昇圧力が掛かるなど、物価を巡る動きは対照的な様相をみせている。

図4 TH インフレ率の推移



(出所)CEIC より第一生命経済研究所作成

[シンガポール]～小売売上高は底入れに一服感も、余暇消費や高額品に対する需要は堅調な動きをみせる～

5日に発表された3月の小売売上高は前年同月比+1.1%となり、前月（同▲3.5%）から2ヶ月ぶりに前年を上回る伸びに転じている。ただし、前月比は▲2.79%と前月（同+3.03%）から3ヶ月ぶりの減少に転じるなど底入れの動きに一服感が出ているものの、中期的な基調は拡大傾向で推移するなど底堅い動きが続いている。なお、同国においては月ごとの自動車販売が上下双方に振れるとともに、小売全体の動向を左右する傾向があり、当月の自動車販売は前月比▲12.43%と前月（同+8.51%）に大きく拡大した反動で4ヶ月ぶりの減少に転じたことが影響している。他方、自動車を除いたベースでも前月

比は▲1.24%と前月（同+2.20%）から3ヶ月ぶりの減少に転じているものの、中期的な基調は拡大傾向で推移するなど底堅い動きが続いている。種類別では、余暇消費や宝飾品など高額品に対する需要は堅調な動きをみせているものの、生活必需品や日用品に対する需要に軒並み下押し圧力が掛かる動きが確認されるなど、景気の先行きに対する不透明感が強まるなかで需要の動きを巡るメリハリが強まっている様子うかがえる。

図5 SG 小売売上高の推移



(出所)CEIC より第一生命経済研究所作成

以 上

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命保険ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。